

資料

## 山口県厚東川工業用水道事業の紹介

### ○ 事業の主旨

宇部・山陽小野田地域は、石炭・石灰等の地下資源に恵まれ、戦前、戦後を通じて本県の鉱工業の発展を担ってきたところである。

近年、石炭産業は衰退したものの、従来のセメント工業に加え、化学、鉄鋼、機械、電力等の企業の進出によりコンビナートが形成され、広域交通網、学術・研究機関等の集積を背景に、高度技術産業集積地域として本県産業の発展をリードする地域である。

当事業は、このような地域の発展や人口の増加に伴い、増大する水需要に対応し、工業用水、上水原水の安定供給による地域の振興に資する目的で実施されたものである。

### ○ 事業の経緯

厚東川工業用水道は、企業の進出、人口増により増大する水需要や、水源不足が深刻化する中、昭和14年の大渇水により甚大な水不足に見舞われたことを契機に、二級河川である厚東川流水の貯留による水源の確保が企画され、昭和12年から開始した県内の河川統水事業に合わせて作成された山口県利水事業計画に基づき、建設に至ったものである。

建設工事は、昭和15年に着工し、昭和18年にはダム本体、送水路とも工程の8割程度進捗していたが、戦争の激化に伴い、資材、労力が不足したため、工事の中止を余儀なくされた。

その後、昭和24年に厚東川ダムの建設工事が再開され、昭和25年3月に完成した。

工業用水道は、昭和25年3月に給水を開始したが、その後の高度経済成長による重化学工業の著しい発展と人口の増加による水需要の増大に対応するため、昭和36年12月から導水路新設に着工し、昭和38年3月に完成した。

現在、当工業用水道事業は、給水開始以来約55年が経過し、施設の経年劣化による著しい老朽化が見られる。また、当施設は一系統で単連結された配置となっていることから、緊急時には断水を余儀なくされる状態にあるため、平成15年度から独自の安定供給の強化

及び工業用水の需要変化への対応を図るため、既存施設を有効活用した施設の複数化、主要幹線の二条化等の整備を実施しているところである。

今後とも、県産業の発展に寄与する地域として重要基盤である工業用水の安定供給に努めていく。

### ○ ユーザーの概要

(平成19年4月1日現在)

業種	給水件数	契約水量 (m <sup>3</sup> /日)
化学	2	237,600
その他	3	105,700
合計	5	343,300

### ○ 工業用水道施設の概要

工業用水の水源は、二級河川厚東川中流に建設された厚東川ダムであり、工業用水251,000m<sup>3</sup>/日、上水原水91,700m<sup>3</sup>/日、合わせて343,300m<sup>3</sup>/日の給水能力を有している。

送水管は約17km（厚東川ダム～平原配水槽）となっている。

### ○ 事業の特徴

- ・主要幹線の二条化により、工業用水の安定供給を図っている。

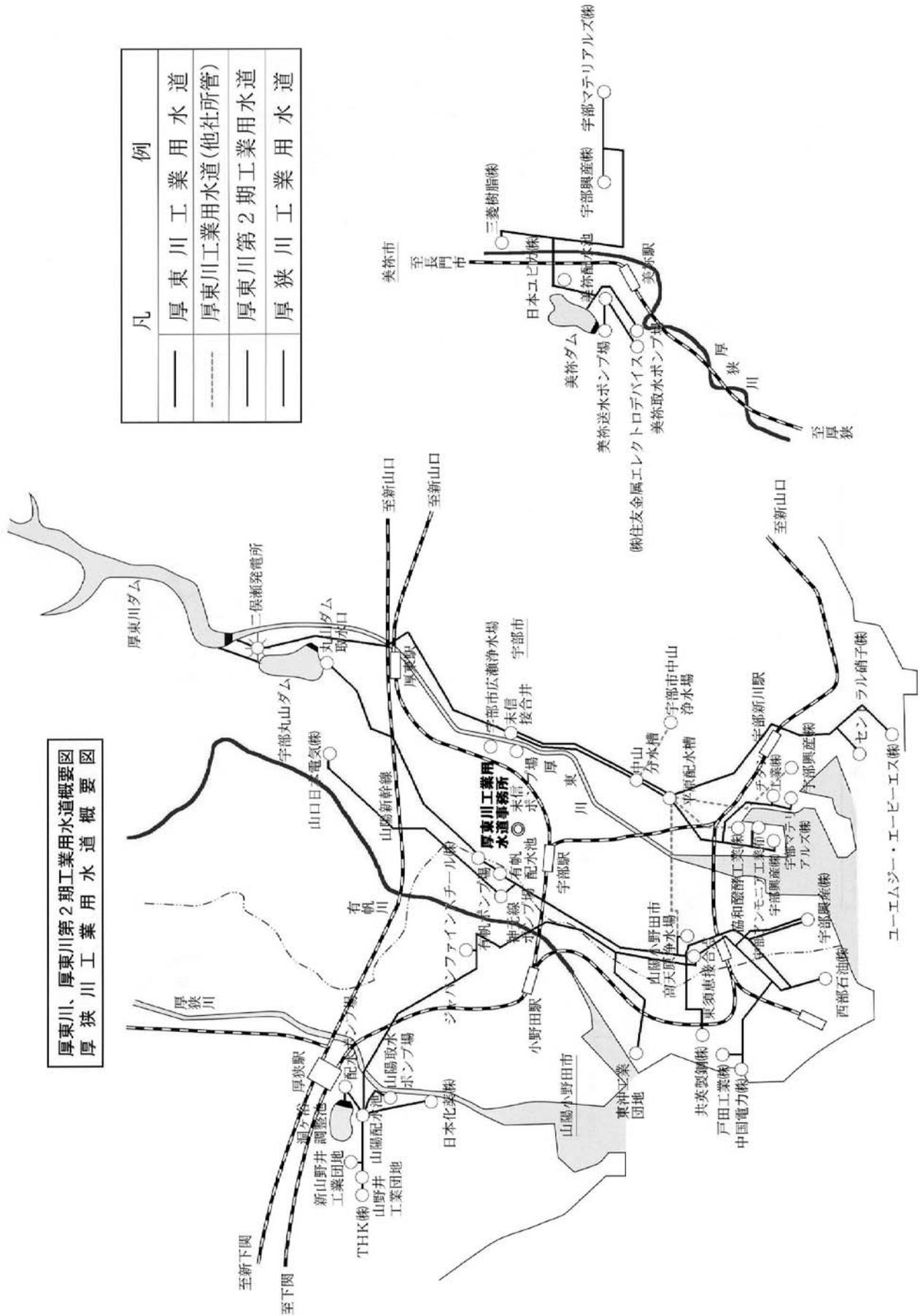
### ○ 工業用水道概要図

次ページ

### ○ 山口県企業局ホームページアドレス

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a40100/index/>

厚東川、厚東川第2期工業用水道概要図  
厚狭川工業用水道概要図



凡	例
——	厚東川工業用水道
-----	厚東川工業用水道(他社所管)
——	厚東川第2期工業用水道
——	厚狭川工業用水道